

委託事業実施内容報告書
平成 27 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム (B)】

実施内容報告書

受託団体名： 公益財団法人名古屋 YWCA

1. 事業名称

「バンピーナ」外国人家族の子育てと生活日本語支援事業

2. 事業の目的

本事業は、名古屋近郊の外国人家族、日本人配偶者やその子どもとして生活する外国人が、日本語の環境のなかで生活し、必要な情報にアクセスできるように日本語学習を通じてサポートする。平成 26 年度の事業内容を継続し、「標準的なカリキュラム案」を使った子育て家族のための日本語教室、生活者のための漢字クラスを設ける。今回は就労支援も講座の中に取り入れ、外国人の家族の生活をトータルに支援する体制を構築する。また、地域の子育て家族に対する支援の現状についても調査し、行政を含めた地域の支援ネットワークを構築することも目的とする。

3. 事業内容の概要

取組 1 「外国人子育てサポート教室 バンピーナ」

子育て中の外国人の家族のために託児付きの教室を設け、生活や子育てに役立つ日本語を学ぶ。

取組 2 「外国人生活者のための土曜漢字クラス」

外国人生活者向けに、生活場面における文字学習(漢字)のため教室を設け、生活をする上で必要な漢字を中心に学ぶ。

取組 3 「外国人親子プレスクール研修会」

研修会という形式で子育てやプレリテラシーについて学ぶ場を設け、情報や知識を広く提供する。

取組 4 「名古屋市における外国人子育て支援教室調査とネットワーク作り」

名古屋市のプレスクール開催状況、外国人家族が抱える問題などを調査により把握し、今後の対応、地域との連携に繋げる。

取組 1・2 では「標準的なカリキュラム案」を使用したシラバスを作成

4. 事業の実施体制について

地域の市役所、区役所、保育園、幼稚園等学校関係者、児童館また日本語教育支援者などに協力を依頼した。取組 1 では、ハローワーク体験、取組 3 では、愛知県県民生活多文化共生推進室によるプレスクール紹介、取組 4 では、名古屋市内の保育園、幼稚園、児童館、日本語教室へのアンケート調査を行った。

指導者、コーディネーター等区分	事業における役割	氏名	所属(連絡先)	取組
地域日本語教育 コーディネーター、 事業担当者	地域日本語教育 コーディネーター、 事業担当者	磯村 美保子	名古屋 YWCA	全て
指導者	講師	伊藤 典子	東海日本語ネットワーク	1,3
事業担当者、コーディネーター	事業担当者、コーディネーター	和田 貴子	名古屋 YWCA	全て
コーディネーター	コーディネーター、講師	上村 桂恵子	みよし市日本語サークル	2
コーディネーター	コーディネーター、講師	滝藤 英里	ECC 日本語学院	4

5. 運営委員会の開催について

【運営委員】

1	磯村 美保子	名古屋 YWCA
2	和田 貴子	名古屋 YWCA
3	西田 文乃	名古屋 YWCA
4	伊藤 典子	東海日本語ネットワーク
5	上村 桂恵子	みよし市日本語サークル
6	滝藤 英里	ECC 日本語学院
7	中島 純子	SKY 日本語学校
8	北村 朱美	日本語オアシス
9	田中 知子	千種高校

【概要】

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 4 月 27 日(月) 14:00 ~ 16:00	2 時間	名古屋 YWCA	磯村, 伊藤, 上村, 北村, 田中, 中島, 西田, 和田	1. 報告(採択内容, 事業名称, 予算, 運営委員会メンバー, 取組) 2. 企画, 運営の仕方の検討 3. 取組内容・授業の進め方, 各種資料作成方法の検討
2	平成 27 年 8 月 31 日(月) 14:00 ~ 16:00	2 時間	名古屋 YWCA	磯村, 伊藤, 上村, 北村, 滝藤, 田中, 中島, 西田, 和田	1. 中間報告(取組 1, 2, 4 について, 日本語教育大会<東京>について) 2. 取組 2 内容・授業の進め方, 各種資料作成方法の検討 3. 取組 3 企画, 開催方法等検討
3	平成 27 年 12 月 21 日(土) 14:00 ~ 16:00	2 時間	名古屋 YWCA	磯村, 伊藤, 上村, 北村, 滝藤, 田中, 中島, 西田, 和田	1. 中間報告(取組 1, 2, 3, 4 について, 日本語教育大会<大阪・福岡>について, 日本語シンポジウム 2015 について) 2. 取組内容・授業の進め方などの振り返り 3. 全体の振り返り

6. 取組についての報告

取組 1: 外国人子育てサポート教室「バンビーナ」

(1) 体制整備に向けた取組の目標

日本で就職をする際の日本語やビジネスマナー・スキルを習得すること。

地域の情報を得て, 生活者が各生活場面で適切に対応できるようにすること。

特に子育てに必要な保育園, 幼稚園, 小学校の手続きや行事内容がわかるようにすること。

日本文化を通じて参加者同士の交流を図ること。

(2) 取組内容

平成 26 年度の取組の中で, 外国人生活者の就職に対する関心が高いことを知った。子どもの就園とともに就業できるように準備したいというニーズが多かったため, 仕事に係る言葉やマナー, スキルを学び, ハローワークへの体験ツアーを行った。なお, 授業では, ハローワーク見学を基に, 講師(元ハローワーク職員)から, 面接や書類作成の際のポイント, その他注意点などを学んだ。「標準的なカリキュラム案」からも, 3. 人とかかわる 4. 社会の一員になる 5. 情報収集・発信するなどの項目を活用しながら, 子育てや仕事に関連する情報, 会話, 文字, 語彙などを提示した。料理教室や習字教室などの文化

教室も行った。平成 26 年度に続き、プレリテラシーとして絵本の読み聞かせを取り上げた。また、毎回、親子で学べる時間を設け、外国にルーツを持つ子どもの言語・概念形成の支援も行った。託児を必要とする人には託児サービス(5人まで)を提供した。

(3) 対象者

日本で子育て中、あるいは子育てしようと考えている外国人生活者
(ひらがな、カタカナが書ける人)

(4) 参加者の総数 20人 (各ターム定員 15 名) 延べ人数ではなく、参加した人数を記載
そのうちの日本語学習者数 20人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
2	1	0	6	0	1	0	0	1	0

その他の国籍と人数:

モンゴル:1名, ウクライナ:4名, メキシコ:2名, アメリカ:1名, イタリア:1名,

(5) 開催時間数(回数)

・ 40 時間 (2.5 時間 × 全 16 回)

(6) 活動の内容

第 1 ターム

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 5 月 29 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	11 人	オリエンテーション, 自己紹介	初対面のあいさつ方法を教える。次に名前札を作成し、あいさつや簡単な自己紹介の方法を教え、実践する。	和田貴子	伊藤典子 田中知子
2	平成 27 年 6 月 5 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	11 人	仕事の探し方	仕事を探すときに大切なこと、どんな仕事があるかななどを学ぶ。	和田貴子	伊藤典子 田中知子
3	平成 27 年 6 月 12 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	10 人	インタビューシート作成	インタビューシートを作成し履歴書を書くための準備をする。	和田貴子	伊藤典子 田中知子
4	平成 27 年 6 月 19 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	7 人	ハローワーク見学, 求人票の見方	ハローワークでできることの説明を受ける。前回のインタビューシートを基に履歴書を書く。	ハローワーク 担当者 / 羽間透	伊藤典子 足田絵津
5	平成 27 年 6 月 26 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	10 人	求人登録票の書き方, 履歴書の書き方	求人登録票の書き方を学ぶ。本物の求人票を使って、仕事の探し方を学ぶ。	羽間透	伊藤典子 足田絵津
6	平成 27 年 7 月 3 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	11 人	税金, 保険, 確定申告について	税金, 保険などについて学ぶ。日本で仕事をする際の注意点などを学ぶ。	北村朱美	伊藤典子 中島純子
7	平成 27 年 7 月 10 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	13 人	レシピの読み方 / 材料の切り方	7 月 24 日の料理教室に向けてレシピを読む。具材の様々な切り方について学ぶ。	國枝京子	伊藤典子 足田絵津

8	平成 27 年 7 月 24 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	8 人	料理教室	冷やしそうめん, のり巻き, 水ようかん	國枝京子	伊藤典子 中島純子 田中知子 疋田絵津
---	------------------------	-----------	-------------	-----	------	-------------------------	------	------------------------------

第 2 ターム

回	開講日時	時間 数	場所	受講 者数	取組の テーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 10 月 16 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	11 人	ゴミの分別	名古屋市とその近郊都市の ごみの捨て方について学ぶ。	田中知子	中島純子 疋田絵津
2	平成 27 年 10 月 23 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	11 人	子育て情報	子ども・子育て支援新制度に ついて学ぶ。名古屋市子ど も・子育て支援センターにつ いて学ぶ。	田中知子	中島純子 疋田絵津
3	平成 27 年 10 月 30 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	9 人	生活上の 会話	クリーニング店・美容院など の店員との会話を学ぶ。	伊藤典子	中島純子 田中知子
4	平成 27 年 11 月 6 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	4 人	ポイントカ ード・割引特 典	ポイントカード・割引券, 特典 やその使い方について学ぶ。	伊藤典子	疋田絵津 田中知子
5	平成 27 年 11 月 13 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	7 人	ダブル リミテッド/ 母語保持に ついて	子どもの言語習得や子育て 上, 大切なことを学ぶ。ダブ ルリミテッドについて学ぶ。	松本一子	中島純子 疋田絵津
6	平成 27 年 11 月 20 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	8 人	習字	四字熟語や好きな言葉を使 って巻物を作る。	加藤玲子	疋田絵津 田中知子
7	平成 27 年 11 月 27 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	6 人	子どもの言 語について / 母語保持 について	今後, 日本での生活におい て, 子育てや子どもの言語習 得, その環境について考え る。母語保持の重要性につ いて知ったうえで, 各国語で 絵本の読み聞かせを行う。	伊藤典子	中島純子 田中知子
8	平成 27 年 12 月 4 日(金)	2.5 時間	名古屋 YWCA	8 人	電気製品の 使い方	電化製品の使い方, マニユ アルの読み方, リモコンの使 い方などについて学ぶ。	伊藤典子	中島純子 田中知子

(7) 特徴的な活動風景(2 ~ 3 回分)

取組事例

<p>【第 1 ターム第 4 回 平成 27 年 6 月 19 日】</p> <p>ハローワーク見学ツアー</p> <p>ハローワークスタッフよりハローワーク紹介</p> <p>ハローワークへ来た際の手順(受付・求人情報検索など)</p> <p>ハローワークでできることの説明</p> <p>前回の授業で作成したインタビューシートを利用して履歴書を書く</p> <p>履歴書の書き方, その際の注意点について学ぶ</p>
--



取組事例

【第2ターム第5回 平成27年11月13日】

家族で話すことば(ワークシートに書く)

家族とどんなことばで話すか

子どもにどの言語を教えたいか

何年くらい日本にいるか

今から始めること・家族のルールを作りましょう

二つの言語で育つ子どもに大切なこと

絵本のある場所の紹介

日本の学校について



(8) 目標の達成状況・成果

検証方法(受講者の聞き取り調査, ポートフォリオ, Can-Do, 講師・補助者の感想より)

- ・開講3年目を迎え, 受講生のニーズに沿ったカリキュラム, シラバスを組むことができた。
- ・受講生の発話量を考慮した授業作りを実現した。
- ・母語保持の重要性を伝えることができた。
- ・親子で学ぶ時間では, プレリテラシーを重点に絵本の読み聞かせなどの活動ができた。
- ・文化教室, 親子で学ぶ時間などは, 参加者同士の交流の場としても活用できた。
- ・個別の相談にも応じ, 問題解決に向けた支援を積極的に行った。
- ・第1ターム, 第2タームと分けることで, 受講生のニーズに随時対応し, シラバス設定をすることができた。
- ・日本語習得へ抵抗を感じていた受講生からは, ターム終了時には参加継続の希望があり, 本事業の目的・目標に沿った日本語教育のあり方を示すことができた。
- ・「バンビーナポートフォリオ」が定着し, 有効に活用することができた。
- ・3年間の活動を基に, 評価方法についても検討することができた。

(9) 今後の改善点について

- ・今年度も託児を希望する受講生の増大には対応できず、託児のあり方については、3年を通しても解決に至っていない。
就学前(特に0~2歳)の子どもを持つ生活者にとって、子育て時は、社会からの孤立、日本語習得の空白時間(上記日本語学習者数参照)となってしまうため、当団体だけではなく、社会全体としての体制整備が必要である。
- ・当団体は施設として託児スペースを保有しているわけではないため、安全面を考慮し設備を整える必要がある。文化庁委託事業としての事業展開では、その解決は難しいと考える。
- ・受講生に母語保持の重要性を伝えることができたが、家族やその周りにいる人に伝えることはプライバシーや家庭の事情という点からも非常に難しかった。
- ・例年ではあるが、子どもの行事、病気で出席率に差がでてしまった。
- ・レベル差がある受講生への対応となると、個別指導という形になり、現在のような講義形式での支援では難しい点があった。支援する側の人数にも限りがあるため、運営方法には課題が残った。
- ・生活上、日本語は必要ない、あるいは、日本語の習得=アイデンティティ喪失と考える受講生が何名かおり、クラス継続にいたらなかった。
- ・受講生の中にトラブルに巻き込まれ、公的文書が読めないまま署名を求められるというケースがあった。バンビーナでの授業内容が理解できても、実際の場合で対処するためには、ある程度の日本語力が必要である。この点から、読み書きを重点においた教室を急ぎよ開催することになった。

取組1:外国人子育てサポート教室「バンビーナ」 特別クラス 読み書き教室

(1) 体制整備に向けた取組の目標

ひらがな・カタカナチームと漢字チームとに分け、レベルに応じ目標を設定。

ひらがな・カタカナチーム:ひらがな・カタカナの習得。

漢字チーム:生活面に特化した漢字の習得。

文集作成・名古屋国際センター発行のひらがな新聞への投稿。

(2) 取組内容

これまで「標準的なカリキュラム案」を活用しながら生活上の行為を中心にシラバス構成をしてきたが、読み書きが全くできない受講生にとっては、授業内容が理解できても、実際にそのような場面に出くわした際、読み書きができず対応できないという意見が多くみられた。この意見から、第1ターム、第2ターム受講生を対象に2月特別クラスを開催し、生活上の語彙や表現を取り入れながら文字学習をするための短期講座を開催した。

(3) 対象者

子育て中のひらがな・カタカナが書けない外国人生活者

生活に役立つ漢字を学びたい外国人生活者

第1ターム、第2ターム受講生を中心に参加者を募集

(4) 参加者の総数 7 人 延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 7 人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

その他の国籍と人数:

モンゴル:1名 ウクライナ 4名 ロシア:1名 イギリス:1名

(5) 開催時間数(回数)

・ 6 時間 (1.5時間×全4回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 28 年 2 月 5 日(金)	1.5 時間	名古屋 YWCA	7 人	あ・か・さ行	文字学習・文章作成(自分の紹介・子どもの紹介・自己紹介)	中島純子 田中知子	中島純子 疋田絵津
					カレンダーの漢字			
2	平成 28 年 2 月 12 日(金)	1.5 時間	名古屋 YWCA	6 人	た・な・は行	文字学習・文章作成(私の生まれた国紹介)	中島純子 田中知子	中島純子 疋田絵津
					お店の漢字			
3	平成 28 年 2 月 19 日(金)	1.5 時間	名古屋 YWCA	5 人	ま・や・ら行・わをん	文字学習・文章作成(5年後の私)	中島純子 田中知子	中島純子 田中知子
					お店の漢字			
4	平成 28 年 2 月 26 日(金)	1.5 時間	名古屋 YWCA	4 人	ひらがな全般・拗音	文字学習・文章作成 復習テスト 読み書き教室の感想	中島純子 田中知子	疋田絵津 田中知子
					病院の漢字			

(7) 特徴的な活動風景

【特別クラス 平成 28 年 2 月 12 日(金)】

ひらがな・カタカナチーム

た行, な行, は行 読みの確認・書き方指導・書く練習(似た字形注意) 半濁音・促音

漢字チーム

生活の漢字その 「お店の漢字1」(商店, 商品の漢字の読み方, 書き方練習)

気分転換(合同) 日本のゲーム:カルタ

文章作成(合同) 作文練習(文集制作) (私の生まれた国紹介<いい所・おすすめ観光地・料理>)



(8) 目標の達成状況・成果

検証方法(受講者の聞き取り調査,ポートフォリオ,Can-Do,講師・補助者の感想より)

- ・ひらがな・カタカナの習得ができた。
- ・文字学習が日本語習得への興味へとつながり,受講生の何名かは,日本語の習得を本格的に始めるに至った。
- ・生活や子育てを文字教育に取り入れることができた。
- ・レベル別にチーム分け(ひらがなカタカナチーム/漢字チーム)をし,ニーズにあった対応をすることができた。
- ・クラスで作成した文章を名古屋国際センター発行の「ひらがなしんぶん」へ掲載することが決定した。

(9) 今後の改善点について

- ・開催時期が,子どもの病気や旧正月と重なり,参加者の限定や出席率に影響した。
- ・文字学習として4回という回数は少なかった。
- ・文字学習となると,個別での対応が更に必要となり,支援者側の人数確保が困難であった。

取組2:外国人生活者のための土曜漢字クラス

(1) 体制整備に向けた取組の目標

「平成25年度日本語ボランティア養成講座「標準的なカリキュラム案の活用方法」での研修を生かした教室活動案を作成し,生活場面で必要な漢字を提示する」という,平成26年度の取組を発展した教室活動により,地域の外国人生活者の日本語力,特に漢字力の向上を目指す。

(2) 取組内容

- ・平成26年度の教室活動を改善しつつ,継続して開催した。
- ・漢字学習を通じ,生活に必要な場面での日本語へ広げられる教室活動を基本とした。
- ・講師発信の授業に加え,受講者の生活場面に応じたグループ会話や漢字学習を活かしたグループワークなどを行い,読み書きだけでなく活発な発話の機会を設けた。

(3) 対象者

- ・地域で生活する非漢字圏の外国人父母(簡単な日本語がわかる人)

(4) 参加者の総数 15人

そのうちの日本語学習者数 15人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
0	0	0	0	0	0	0	1	7	0

その他の国籍と人数:ミャンマー1、メキシコ1、アルメニア1

(5) 開催時間数(回数)

- ・ 20時間 (2.5 時間 × 全 8 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	指導者名	補助者名
1	平成 27 年 9 月 12 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	6 人	自己紹介 漢字の話 漢字さがし	自己紹介に関係する漢字を導入し、漢字語彙に合わせて自己紹介をしてもらう。漢字の基本的な話をし、学習目標を立てる。また、普段から漢字に興味を持ってもらえるよう身近な漢字さがしワークをする。	上村桂恵子	ロハスローナ、滝藤英里
2	平成 27 年 9 月 26 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	6 人	町の情報 漢字のデザイン	町でよく見かける漢字を導入し、関連付けているんな語彙の意味をイメージできるようにする。明朝体・ゴシック体など漢字にいろんなデザインがあることを知る。	滝藤英里	ロハスローナ、伊藤里奈
3	平成 27 年 10 月 10 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	4 人	料理の漢字 漢字カルタ	料理でよく使う漢字語彙を導入した後、カツ丼レシピを読んでエアークッキングを行う。後半は象形漢字を中心とした漢字カルタを用いて、漢字に親しみながらクラスコミュニケーションをはかる。	ロハスローナ	伊藤里奈、滝藤英里
4	平成 27 年 10 月 24 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	4 人	漢字の音訓 学校の漢字	漢字の音訓を導入。漢字カードで読み練習をする。各自音訓調べをして発表する。学校制度の紹介をしながら、使用頻度の高い漢字を取り上げて読み中心に学習する。また、学校のお便りの大切なキーワード漢字を知る。	滝藤英里	ロハスローナ、伊藤里奈
5	平成 27 年 11 月 14 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	5 人	書写(硬筆) 書写(毛筆)	絵馬に書く願いごとの四字熟語を導入。折り紙の中心に願い事を書いて折り鶴を折る。後半は好きな漢字を毛筆で書く書道に挑戦する。筆の持ち方、運び方を練習してから自由に書く。消しゴム判子の押印をして完成。最後は2グループに分かれてリレー書道を行い、「願」を書く。	上村桂恵子	ロハスローナ、伊藤里奈
6	平成 27 年 11 月 28 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	3 人	漢字の音の記号 買い物の漢字	仕・土・誌、冷・令・齡から音の記号を導入。音の記号と語彙を結びつけるプリントワークを行う。後半は電気店のチラシを使って、家電や買い物に関わる漢字を学ぶ。最後はチラシから欲しい商品を選び発表する。	滝藤英里	ロハスローナ
7	平成 27 年 12 月 5 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	6 人	漢字の意味の記号 仕事の漢字	漢字カルタで部首の復習をしながら、部首が表す意味を知る。求人票の漢字語彙を紹介し、読みと意味の理解をはかる。	ロハスローナ	伊藤里奈

						タウンワークを見て仕事を選び、内容を発表する。 履歴書の書き方を知る。		
8	平成 27 年 12 月 19 日(土) 10:00-12:30	2.5 時間	名古屋 YWCA	4 人	音 読 練 習 (マイナンバー について) 漢字調べ成 果発表	マイナンバーについての資料 を使って、音読練習をし、漢 字にふりがなを振る。 1つ漢字を選んで、音訓・成り 立ち・筆順・画数・使い方を調 べてクラス発表する。 最初に行った Can-Do を再度 行い、自分の成長を知る。	上村桂恵子	ロハスロレ ーナ、伊藤 里奈

(7) 特徴的な活動風景

取組事例

【第 2 回 2017 年 9 月 27 日】

テーマ:町の情報・漢字のデザイン

宿題発表(毎回、気になる漢字を写真に撮って来てもらって、クラスでシェアして学ぶ時間とした)

町の看板をいくつか導入した後、ワークシートに取り組む。

ピックアップした漢字の筆順を筆順アプリで確認し、空書練習をした後、ワークシートに書く。

言葉の後ろにつく漢字、言葉の前につく漢字のワークシートで、関連語彙を学ぶ。

明朝体・ゴシック体・教科書体の「米」の字を紹介し、漢字にデザインがあることを知る。

いろいろな漢字を書いた漢字カードの中から気になる漢字を選び、漢字辞典で調べ学習をする。

調べた漢字を発表する。

覚えた漢字の読み方・意味のふりがえりをする。

学習のふりがえりシートを記入し、講師がチェックをする。



取組事例

【第 7 回 2015 年 12 月 5 日】

テーマ:漢字の意味の記号・仕事の漢字

宿題発表

漢字カルタを使って、前回学習した部首の復習をする。

新しい漢字で、たれ・かんむり・へん・かまえ等を示し、クイズ形式になった問題をとく。

部首の意味を紹介し、漢字と関連付けて覚える。

求人票を使って、仕事の漢字を導入。大切な漢字の読みと意味をひとつひとつ見ていく。

求人票の中から受講者が書きたい漢字を選んで、筆順アプリで筆順を確認し、ノートに書く。

タウンワークから実際にやってみたい仕事を選び、内容をクラスで発表する。

退職願を書いてみる。

履歴書を紹介し、自分の履歴書を書くことを、宿題とする。

学習のふりかえりシートを記入し、講師がチェックする。



(8) 目標の達成状況・成果

検証方法(受講者の聞き取り調査,ポートフォリオ,Can-Do,講師・補助者の感想より)

- ・生活者の中でも外国人父母を中心にしたことでシラバス内容と受講生の学習希望内容やレベル設定が合致した。
- ・意味の理解・読むにとどまらず、「書く」ことにも重点をおいて指導できたことで受講生の満足度は昨年以上となった。
- ・受講生自身が発信できるようなクラス発表の場を多くとることで活発な教室活動が実現した。
- ・地域の情報や新しい情報を教室活動の中で上手く取り入れ発信することができた。特に「マイナンバー」についての資料にルビをふりながら音読する活動では、「二つの意味で勉強になった」という声が上がった。
- ・辞書の使い方の指導やアプリの紹介から自律学習できるようになり、「日本語能力試験に挑戦したい」と意欲的な受講生もいた。
- ・昨年からのリピーターが3人おり、昨年と今年の2冊のポートフォリオから成長が見られた。
- ・男性の受講申し込みやチラシを郵送した中学校の先生からの紹介など、新規申し込みがあったことは大きな収穫である。
- ・最初と最後の受講生のCan-Doより、「わかる」「読める」「書ける」の成果がはっきりと出た。また、わかる漢字数も受講生が最初に立てた目標を上回ることができた。
- ・「来年も必ず開催して欲しい」「内容に満足している」という受講生と、「受講生に寄り添った教室活動ができた」「毎回手応えを感じられた」という講師・補助者の声から、取組内容の成果は十分あったと確信できる。

(9) 今後の改善点について

- ・開催時期の見直し 本人だけでなく子どもの風邪などで休むことが多かったこと、暖かい時期が良いという声があった。
- ・開催時間の見直し 生活者は夜勤も多く、午前でなく午後開催を望んでいる。そのために参加率が低くなった。開催時間の検討が必要である。
- ・開催総時間数の見直し 2.5時間×8回の20時間では足りないとの声があり、回数を増やすかタームを増やすかの検討が必要である。
- ・広報の見直し 定員に達しなかったため、欠席者が多い日は予定の教室活動が出来ない場合があっ

た。必ず定員になるような教室の周知が必須である。また、本当に必要な人に広報できるよう検討が必要である。

- ・受講生との連絡方法の検討 携帯電話でのやりとりを基本としたが、メールやラインを活用して漢字の写真や宿題を送受信できるとよいのではないか？
- ・中級クラスの開催検討 力をつけている受講生のために、次のステップを作ってはどうか。
- ・対象者の見直し 対象者を絞り過ぎたために定員が集まらなかったのではないか。漢字圏の人も対象とすることを検討する。
- ・男女問わないシラバスの検討 今年度初めて男性受講生が参加したことで、男女問わないシラバスの検討が必要なことを認識した。
- ・参加率を上げる工夫 風邪などやむを得ない理由で欠席する場合はほとんどではあったが、「どうしても参加したい」と受講生が思う内容の教室活動にするための努力が必要である。
- ・教室外活動の検討 昨年の課題「教室で学んだことを、教室外の実際の場面で活用できるかどうかの活動を行うこと」が今年度も実現できなかったため、今後の課題としたい。

取組3：外国人親子プレスクール研修会

(1) 体制整備に向けた取組の目標

就学前までに外国人親子に必要な準備品や日本語のスキルなどを学ぶ。

外国人家族の交流の場とする。

実際に外国人親子と日本語教育関連団体や各自治体の参加者が直接意見交換できる場を設ける。

日本で安全で健康な生活を送ることができるようになるための情報提供、文化体験なども行う。

(2) 取組内容

子どもの就学に必要な知識や情報を得るための研修会を開催した。子どもが就学するまでに必要なブレリテラシーについて、実際就学時までに準備しておかなければならない準備品や日本語のスキルを講義やワークショップ形式で体験し学んだ。また、日本での生活をより豊かにし、且つ、子育てにも役に立つよう、洋裁や親子で楽しむヨガなどのアトラクションもプログラムに組み込んだ。なお、県が推進するプレスクール開催の普及を受け、関係団体(日本人対象)に呼びかけ、県担当者にプレスクールや愛知県の現状説明の場、および、取組4の調査結果の発表の場を設けた。今後、どう連携を図っていくか、体制整備などを検討した。

(3) 対象者

日本で子育て中の外国人親子とその支援関係者(行政・自治体関係者、日本語教育関係者・保育施設)

(4) 参加者の総数 97人 延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 23人

【出身・国籍別内訳】

中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	インドネシア	タイ	ペルー	フィリピン	日本
3	3	0	0	0	0	0	0	0	74

その他の国籍と人数:

モンゴル:3名 ウクライナ:2名 不明:12名

(5) 開催時間数(回数)

・ 3 時間 (3 時間 × 全 1 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要	講師など
1	平成 27 年 9 月 27 日(日)	3 時間	名古屋 YWCA ビッグスペース	97 人	外国人親子 プレスクール 研修会	就学前までに外国人親子に必要な準備品や日本語のスキルなどを学ぶ。刺繍教室やヨガ教室などで交流を図る。	井上アコ アリ
2	平成 27 年 9 月 27 日(日)	3 時間	名古屋 YWCA201・ 202 教室	21 人	外国人子 育て支援調 査結果報告	県担当者よりプレスクール紹介を行う。/ 取組 4 外国人子育て支援調査結果報告を担当者より行う。	近藤公彦(愛知県) 端地純平

(7) 特徴的な取り組み風景(2~3回分)

外国人家族プレスクール研修会

外国人就学前準備ワークショップ
バンビーナ生活相談室
バンビーナ子ども広場
ヨガ教室
刺繍教室
バンビーナスウィーツ
バンビーナ手相占い



外国人子育て支援調査結果報告

外国人子育て支援調査結果報告 (名古屋 YWCA 端地純平)
プレスクール紹介(愛知県県民生活部多文化共生推進室 近藤公彦氏)
ディスカッション ~就学前の子どもと父母支援のあり方~



(8) 目標の達成状況・成果

- ・日本人対象プログラムでは貴重な意見を多く聞くことができた。
- ・名古屋YWCA 外国人子ども日本語教室「ガリ勉クラブ」の学習者がボランティアとして参加したが、参加者の外国人の子どもと交流を積極的に行うことができた。
- ・ヨガ、手相占い、子ども広場に人気が集中した。
- ・バンビーナ型のクッキーを作ったことで周知ができた。

以下、「外国人子育て支援調査結果報告」参加者による意見(アンケートより) <抜粋>

- ・プレスクールについてなど、知らないことがとても多く勉強になりました。
現在の職場では外国籍の方の利用は少ないですが、来たくても来られないという方へのアプローチ等、何かできればと思いました。
- ・「社会課題」の掘り出し、それを知る場として、とても有意義でした。
- ・昨年、名古屋市教育委員会の話を聞いた上でこの研修会の話聞いて、地域によっての状況の違いがわかった。
- ・前向きに意見交換されていて良かったと思います。

(9) 今後の改善点について

- ・日曜日の開催に課題があった。(外国人の参加者が少なかった。)
- ・バンビーナ受講生(家族)の参加率が低かった。
(9名より不参加連絡有:子どもの病気(4名)/学校行事(3名)/その他(2名))
- ・小学校入学準備ワークショップはゲームやクイズを取り入れるなど、イベントが楽しくなる工夫が必要だった。
- ・「外国人生活相談室」は来場者への周知方法を工夫すべきだった。
- ・「外国人生活相談室」の「生活相談」と「日本語教室紹介」は日本人支援者も対象にした方がよかった。

取組4：名古屋市における外国人子育て支援教室調査とネットワーク作り

(1) 体制整備に向けた取組の目標

名古屋市を中心とした地域では外国人家族が増加している。日本人の配偶者として子育てをする外国人だけでなく日本で仕事をする外国人も増加している。父母とも外国人の家族、母が外国人の家族は特に、情報不足のため日本人の家族と同じような行政サービスが受けられないのが現状である。今回の取組を通じて子育て中の外国人家族に必要な情報が届くようにすることが目標である。

(2) 取組内容

名古屋市で日本語教室を行っている団体に子育て支援の体制についてのアンケート調査を行った。託児付日本語教室、就学前児童対象の教室などの現状を調査し、問題点を明らかにした。また、名古屋市内の保育施設にもアンケートを行い、外国人父母や子どもの状況や保育現場での「やさしい日本語」の必要性なども調査を行った。

(3) 対象者

- ・名古屋市内の保育施設、児童館、日本語教室

(4) アンケート送付総数 645 通

そのうちの返送数 102 通

【施設別内訳】

施設名	保育施設			児童館	日本語教室
	幼稚園	認可保育園	認可外保育園		
送付数	155 通	360 通	83 通	16 通	31 通
返送数	19 通	46 通	15 通	7 通	15 通

(5) 開催時間数(回数)

・ 6 時間 (2 時間 × 全 3 回)

(6) 活動の内容

回	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成 27 年 5 月 12 日(火) 14:00 ~ 16:00	2 時間	名古屋 YWCA	滝藤英里 端地純平 (和田貴子)	アンケートについて 送付先,送付方法,アンケート項目の検討
2	平成 27 年 7 月 21 日(火) 14:00 ~ 16:00	2 時間	名古屋 YWCA	滝藤英里 端地純平 (和田貴子)	アンケート調査結果の検討 集計報告,調査結果のまとめ方,見学先の検討
3	平成 27 年 11 月 17 日(火) 13:00 ~ 15:00	2 時間	名古屋 YWCA	滝藤英里 端地純平 (和田貴子)	最終報告,成果物について 取組 3 で発表報告,最終成果物の内容の検討

(8) 目標の達成状況・成果

アンケート調査を行ったところ,以下の現状と課題が明らかになった。保育施設(アンケート回答施設に限る)においては,日本語でのコミュニケーションが難しい子どもも多いが,その支援は十分とは言えない状況である。また外国人の子どもとの会話以上に,保護者との会話が課題になっている。日本語教室においては,託児制度がある教室,就学前の子ども対象の教室は非常に少なく,「費用」「スタッフ」「場所」が大きな課題になっている。なお,アンケート調査結果については,冊子を作成し,アンケート返送先へ送付した。

(9) 今後の改善点について

この調査結果から,外国人家庭への子育て支援や日本語・就学支援の課題が明らかになった。またアンケート調査実施においては,回収率が低く,現状や課題についてはさらに検討していく必要がある。アンケート回収率を上げるために,今後の支援に役立つ情報を提供するなど,回収率を上げる工夫をしなければならない。また今後,保育施設,日本語教室,行政が情報を共有し,協力し合える関係を作っていく必要がある。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

本事業は,名古屋近郊の外国人家族,日本人配偶者やその子どもとして生活する外国人が,日本語の環境のなかで生活し,必要な情報にアクセスできるように日本語学習を通じてサポートする。平成 26 年度の事業内容を継続し,「標準的なカリキュラム案」を使った子育て家族のための日本語教室,生活者のための漢字クラスを設ける。今回は就労支援も講座の中に取り入れ,外国人の家族の生活をトータルに支援する体制を構築する。また,地域の子育て家族に対する支援の現状についても調査し,行政を含めた地域の支援ネットワークを構築することも目的とする。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・取組 1 より,ハローワーク体験ツアーでは,「名古屋外国人雇用サービスセンター」に協力を依頼し,施設案内,紹介等が実現できた。

- ・取組3より、愛知県県民生活部多文化共生推進室に協力を依頼し、プレススクール紹介を行った。参加者には、名古屋市、瀬戸市等、自治体関係者もあり、外国人家族への支援のあり方について、積極的に意見交換を行うができた。
- ・文化庁日本語教育大会(東京、大阪、福岡大会参加)では、分科会「日本語学習とポートフォリオ」の発表団体として登壇し、「バンビーナポートフォリオ」として実践報告を行った。
- ・日本語ボランティアシンポジウム 2015 多文化の中の子ども支援『親への支援は子どもの支援に、子どもの支援は親への支援に』、午前の部:パネルディスカッション 「子育て中の親への支援で私たちができること」にて、登壇団体として「バンビーナ」の活動発表をした。
- ・個別の相談にも応じ、問題解決に向けた支援を積極的に行った。

(3) 地域における事業の効果、成果

- ・取組3「外国人子育て支援調査結果報告」では、名古屋中心地という立地を活用し、名古屋市を中心とする各地域の関係団体を集め意見交換をすることができた。
- ・文化庁日本語教育大会(東京、大阪、福岡大会参加)、分科会「日本語学習とポートフォリオ」では、発表団体として登壇し、「バンビーナポートフォリオ」の実践報告を行うことにより、全国的に活動の周知ができた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果

- ・日本語ボランティアシンポジウム 2015、パネルディスカッションに登壇団体として参加することにより、バンビーナの活動周知とともに、関係者とのつながりを持つことができた。
- ・取組4より、就学前の子どもに対する日本語教育の調査を保育施設、児童館、日本語教室に行うことにより、その実情を把握することができた。調査から課題を見出すことができた。(課題については、(6)改善点、今後の課題を参照)
- ・愛知県県民生活部多文化共生推進室に協力を依頼し、プレススクール紹介を行い、就学前の子ども、外国人家族への支援の必要性を伝えることができた。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・ホームページの掲載により、関係者だけではなく、外部への周知も行った。
- ・過去2年の活動から、送付地域や団体を絞り、効率的に広報を行った。
- ・保育施設へ積極的にDM送付や呼びかけをし、教室参加者募集とともに、その支援の必要性を伝えた。
- ・取組4のアンケート調査では、調査とともに活動の周知も行った。
- ・文化庁日本語教育大会、日本語ボランティアシンポジウム 2015での発表をすることで、全国的に活動周知ができた。

(6) 改善点、今後の課題について

- ・行政と地域(関係団体、教室)、関係団体同士の連携
取組4より、アンケート調査を依頼したものの、返送数としては予想を下回った。日本語教育、母語保持など、外国人家族への支援の必要性を関係者や支援側が理解していないことも明らかになった。
- ・行政と支援団体の意識の差、また外国人家族と支援側の意識の差
受講生側のニーズと事業目的が一致しないため、企画、運営面で困難が生じた。

物理的に無理が生じ、支援を断念せざるを得ないこともあった。

・就学前の子どもに対する支援のあり方の見直し

就学前といっても年齢に幅がある。外国人保護者への支援であっても子どもの年齢に応じた支援が必要であることを実感した。

・子育て中の外国人生活者への支援の体制整備

特に保育面での支援が進まないため、子育て中の外国人にとっては、社会からの孤立、日本語学習時間の空白化が問題となっている。社会全体としての体制整備が必要である。

・母語保持の重要性を伝えることができたが、家族やその周りにいる人に伝えることはプライバシーや家庭の事情という点からも非常に難しかった。

(7) その他参考資料

取組1 外国人子育てサポート教室「バンビーナ」

・受講生へのアンケート

2015年度 外国人子育てサポート教室「バンビーナ」アンケート

皆様のご参加ありがとうございます。皆さんの感想をお聞かせください。

Q1. 「バンビーナ」が良かった点をお知らせください。お返事をさせていただきます。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆

いい所を書いてください。

よくない所を書いてください。

Q2. 今後、参加したいことと理由ですか？お返事してください。

1 子どもの教育	6 税金の徴収
2 子育て	7 買い物
3 人との付き合い方・マナー	8 自治体の制度・支援
4 健康と安全	9 進学
5 仕事（仕事の種類）・コンピュータ	10 その他

Q3. 次の教室はどうでしたか。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆	☆ ☆ ☆ ☆ ☆
-----------	-----------

Q4. 感じてもらいたいこと、希望したい点や改善点がありますか。

Q5. お子さんを連れてきていますか？
長男が参加していますが、子どもと一緒に来てほしいと思っています。

Q6. 皆さんの感想、感想をお聞かせください。

Q7. 今後も「バンビーナ」に参加したいですか？

はい / いいえ (理由)

・Can Do Statement (第1ターム)

平成27年度文化庁国際事業「生活者としての外国人」のための日本語学習教室「バンビーナ」外国人生活者の子育てと生活に関する支援事業 2015.5.29

氏名 _____ 年齢 _____

氏名 _____ 年齢 _____

※○をつけてください。

No.	説明	できる	わからない	できない
1.	自己紹介ができる。 誰の何のことを紹介できる。			
2.	日本のマナーを知っている。 (使うことができる)。			
3.	インクビューシートを 書くことができる。			
4.	外国人の 慣習を見ることが出来る。 慣習を書くことができる。			
5.	自分でしごとを探ることができる。			
6.	日本の生活で これから用がしたいと説明できる。			
7.	いろいろな種類ののりやわかる。 レシピを読むことができる。			
8.	得意得意をすることができる。			

(第2ターム)

平成27年度文化庁国際事業「生活者としての外国人」のための日本語学習教室「バンビーナ」外国人生活者の子育てと生活に関する支援事業 2015.12.4

氏名 _____ 年齢 _____

氏名 _____ 年齢 _____

※○をつけてください。

No.	説明	できる	わからない	できない
3.	クリーニング店・美容院で、なにをし てほしいか、いえます。			
4.	ポイントカードなどが使えます。			
7.	子どもは両手が使えるようにするの 意味が分かります。うさぎの世話を覚 えたいです。			
8.	エドコンや電子レンジに書いて ある日本語がわかります。いろいろ使 うことができます。			

